

研究課題名	急性期と慢性期閉塞性脳血管障害に対する血行再建術の治療効果に及ぼす因子の検討
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 脳神経外科
研究責任者(職名)	山口 将 (医長)
研究期間	承認日 ～ 2027 年 2 月 28 日
研究目的と意義	虚血性脳血管障害に対する血行再建術(閉塞や狭窄血管の再開通療法)は患者さんの予後を改善し、脳梗塞の予防効果も示しており、多くの施設で行われています。 特に急性期主幹動脈閉塞に対する機械的血栓回収術(カテーテルによる閉塞血管の再開通療法)は脳梗塞の患者さんの予後を改善し、脳卒中ガイドラインでも強く推奨されております。2022年に比較的大きな脳梗塞に対する機械的血栓回収術の有用性が世界的にとっても影響力のある雑誌である The New England Journal of Medicine (NEJM)に報告され、今後治療適応の拡大の可能性があります。しかし、どのような患者さんに対して治療効果が大きいかなどは十分に検討されておらず、検討が必要です。さらに慢性期の閉塞性脳血管障害に対する血行再建術においても術後の過灌流症候群などにより患者さんの予後が大きく変わるために周術期の管理は重要です。今回当院で行われた閉塞性脳血管障害の患者さんにおいて血行再建術を受けた患者さんのデータベースを作成し、患者さんの予後に関与した因子の解析を行い、予後に関連する因子を明らかにすることにより、今後の治療効果の向上につなげていきたいと考えています。
研究内容	●対象となる患者さん
	急性期と慢性期の閉塞性脳血管障害の患者さんで、当院にて 2014 年 4 月 1 日～2024 年 11 月 30 日の間に血行再建術を受けた患者さん
	●利用する情報
	年齢、性別、既往症、内服薬、初診時現症、入院中の検査所見(血圧、脈拍数、体温、血液生化学的検査[コレステロール値、中性脂肪、HbA1C、Cr、BUN、血糖値]、生理検査[心電図、頸部超音波検査結果、心エコー結果]、画像検査[MRI、CT])、発症から入院までの時間、入院から治療までの時間、手技時間、手技の成績(再開通の程度、合併症の有無)、入院中の合併症の有無、入院中の治療(抗血栓薬の種類、輸液の種類[ラジカットの使用有無、膠質輸液の使用の有無、抗浮腫薬の使用の有無])、予後(退院時、3ヶ月後の modified Rankin Scale)
	●研究方法
	上記の情報をカルテより収集し、データベースを作成後、下記の項目に関して関連する因子などを検討します。 ・症状改善の有無、退院時予後、3ヶ月後予後、手術の手技時間、再開通率、合併症
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095（822）3251 （内線 3553） 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）